

プロジェクト課題名 **No. 1 被災沿岸部の大規模経営体における経営の安定化**  
対 象 **株式会社ぱるファーム大曲, 株式会社めぐいと, 株式会社サンエイト,  
農事組合法人奥松島グリーンファーム**

## 1 課題の背景

震災後設立された法人は、震災後の地域農業の担い手として営農再開を優先し、急速な農地集積による規模拡大が行われた結果、100ha規模の経営面積となっている。しかしながら、法人経営に向けての経営理念や事業計画等の検討が不十分な場合が多く、効率的な土地利用やほ場管理、労務管理に苦慮している。

また、地域農業の担い手として持続的な経営を行うには従業員の定着・育成も不可欠であるが、これらの法人の経営者は生産量確保のため日々の作業に追われており、人材育成の必要性は感じながらも具体的な対策を実践できていない場合が多い。

## 2 活動内容

### ◎経営管理能力向上支援

【定性的目標：経営管理能力の向上により経営の安定化が図られる】

・農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業（以下、ハンズオン事業）を活用し、経営コンサルタントによる継続的な経営改善指導を行った。また、新規導入品目として検討しているメロンの栽培試験について、先端プロ社会実装事業を活用し、農園研と連携して支援した。（(株)ぱるファーム）

・不採算部門であるミニトマト部門に対し、その要因である土壌病害を回避し、栽培経験の乏しさ補うための簡易養液栽培の試験栽培を支援するとともに、ミニトマト部門の問題点を明らかにするため、担当社員と社長によるワークショップを実施した。更に、ICT対応環境測定センサーをハウス内に設置し、見える化した環境データに基づく技術指導を実施した。

（(株)めぐいと）

### ◎雇用就農者の人材育成支援

【定性的目標：人材の定着・育成に向けた経営者の理解醸成と従業員のキャリア形成が図られる】

・従業員向け研修会として、農業法人社員として必要となる基本的な農業技術の知識等を身に付けることを目的に、「農業法人新入社員向け技術セミナー」を開催した。

・経営者向け研修会として、従業員の人材育成に関する理解醸成を促すことを目的に「農業法人経営者・部門長向けセミナー」を開催した。

・ハンズオン事業を活用し、東松島市の法人を対象とした階層別人材育成研修「農業法人の経営発展に係る人材育成研修会（階層別）」を開催した。本研修では対象の幅を初めて中堅層にも広げるとともに、体験型研修を取り入れた。

### ◎効率的な土地利用と省力低コスト技術導入の支援

【定性的目標：大規模土地利用型農業における効率的な土地利用と省力・低コスト技術導入により経営基盤の強化が図られる。】

・水稻乾田直播については、生育概況等を記載した「直播栽培情報」を発行し、現地指導等を通じて栽培管理を指導した。転作作物については法人巡回による現地指導を基本に、洲崎

・東名地区の復旧初年目のほ場に大豆除塩調査ほを設置し、生育経過の把握と指導を行った。また、適期の技術情報を提供するため、「麦作・大豆情報」の発行や栽培講習会で講演するなど、基本技術の励行を図った。（(農)奥松島グリーンファームほか）

・ICTを活用したほ場管理システムについては、各法人に意識調査を実施し、導入意向について確認するとともに、「農業法人経営者・部門長向けセミナー」の第2部ではほ場管理システムの導入に向けた研修会を開催した。

## 3 活動の成果とポイント

### ◎経営管理能力向上支援

・定例社員会議の運営を社員自身が行うようになり、次第に積極的な発言が見られるようになった。農繁期でも欠かさず開催したことから、定例社員会議が情報共有、意思統一の場として社員全体に認知され、組織運営上最も重要な情報の流れが整備された。また、試験栽培中のメロンは、半促成栽培では低温と日照不足の影響で結実不良となったが、抑制栽培では生育は安定しており、収穫に至った。（(株)ぱるファーム大曲）

・ワークショップにより、ミニトマト担当社員の技術力向上が経営改善の喫緊の課題であることが明らかになるとともに、社内の情報共有や人材育成における課題も浮き彫りになった。また、簡易養液栽培の試験栽培では、生育における土耕栽培との相違点など確認し、次年度の試験栽培に向けて貴重なデータを得た。更に、見える化したハウス内環境データを基に温度管理等について指導し、生育バランスと成熟の遅延等を改善した。（(株)めぐいと）

### ◎雇用就農者の人材育成支援

- ・従業員向け技術セミナーは「農薬の基礎知識」をテーマに開催し、農薬の説明だけでなく、「農薬登録情報の確認方法」についてもマニュアル形式で紹介するなど、法人社員の自発的行動を促す情報についても提供した。
- ・経営者向けセミナーでは「人材育成」を主なテーマに、特定社会保険労務士から人事評価制度を活用した人材育成や、雇用環境の整備等について講演があり、従業員の定着に対する意識醸成が図られた。
- ・東松島市の法人を対象とした階層別人材育成研修では、今回初めて中堅層を対象としたコーチング研修を実施し、法人全体で若手社員を育成する環境づくりを推進するとともに、全階層のグループワークでは法人経営をゲームで疑似体験するアクティブラーニングを取り入れるなど、経営への理解を深めた。

#### ◎効率的な土地利用と省力低コスト技術導入の支援

- ・本年は天候の影響で水稻の収量水準がやや低くなったが、各法人とも乾田直播技術についての理解度は向上してきており、今後も乾田直播を拡大する意向を持っている。しかし、(農)奥松島グリーンファームについては他法人と比べ単収が低く、移植水稻等も含めて収量レベルの向上が急務である。また、転作作物では一部大豆で湿害が発生したが、基本技術の励行が図られ、概ね標準的な作柄が見込まれる。復旧初年目の大豆除塩調査ほでも懸念された塩害は発生せず、坪刈り収量は185kg/10aとなった
- ・現在ほ場管理システムの導入意向があるのは(株)めぐいとのみであり、他の3法人は徐々に必要性を感じてきているものの、具体的な導入イメージを持つには至っていない。
- ・経営者向けセミナーの第2部で、ほ場管理システム導入のメリット・デメリット、主要システムの概要及び比較、今後の展開方向等について情報提供し、システム導入に向けて研修する場を設けた。

《定量的数値目標：経営発展に向けた新たな経営改善計画等の策定法人数 (H28) 0→(H30) 3》  
実績：(H28) 0→(H30) 3



社員会議 (ハンズオン)



階層別人材育成研修会



ワークショップ

## 4 今後の活動予定

### ◎経営管理能力向上支援

- ・メロンについては、本年の作業記録、防除記録等を基に、次年度に向けた基本的な栽培マニュアルを作成するとともに、次年度も引き続き試験栽培を継続支援し、品種、作型等の検討を行う。また、ハンズオン事業終了後も定例社員会議に継続して出席し、新たな課題抽出と、課題への迅速な対応を図る。((株)ぱるファーム大曲)
- ・ミニトマト担当社員の技術力底上げについて重点支援するとともに、経営者層に対し社員教育の重要性についての理解醸成に努める。また、ミニトマト部門における定例社員会議の開催を提案し、情報共有及び発言の場を設ける。((株)めぐいと)
- ・現在の事業計画等をベースに経営実績を検証、見直しを行い、新たな経営改善計画等の作成を支援する。((農)奥松島グリーンファーム)

### ◎雇用就農者の人材育成支援

- ・農業法人の経営安定化に不可欠な雇用就農者の定着・育成を図るため、引き続き各階層に対する研修会等を開催し、それぞれの成長段階に応じた人材育成支援を展開する。
- ・雇用就農者の人材育成に必要な社内環境整備等について、法人自らが取り組むよう支援し、人材育成の実践と定着を図る。

### ◎効率的な土地利用と省力低コスト技術導入の支援

- ・主要なほ場管理システムメーカーが自社システムのプレゼンを行う「ほ場管理システム研修会」を開催し、各システムの強み、コスト等について情報提供するとともに、ほ場管理システム導入に向けた具体的なイメージを意識させるよう努める。
- ・乾田直播、転作作物の栽培指導については、経験年数の浅い(農)奥松島グリーンファームを重点支援対象と位置づけ、省力技術の定着と技術レベルの底上げを集中的に図る。現地巡回によるリアルタイムの指導を基本に展開するとともに、法人内技術研修会を適宜開催し、作業員全員の理解が深まるよう努める。((農)奥松島グリーンファーム)

プロジェクト課題名 **No. 2 先進的園芸経営体の育成**

対象 **株式会社イグナルファーム, 株式会社アグリ・パレット, 株式会社スマイルファーム石巻, 株式会社デ・リーフデ北上**

活動期間 **平成28年度～平成32年度**

## 1 課題の背景

管内は、トマト、きゅうり、いちご等県下有数の園芸作物の生産量を誇る。特にトマトは県内第1位の産地で、震災前から農業法人が雇用労力を取り入れた大規模な経営を展開していた。震災後は復興交付金事業等の活用により大規模園芸施設が導入され、新規設立法人による園芸作物の生産が行われている。

対象となる4経営体には、①高度化された大規模施設の適切な管理運営、②農業生産工程管理（GAP）の推進によるリスク管理、③経営改善による生産性の向上など、喫緊の課題を有しており、これらの共通した課題の解決に向け活動を展開した。

## 2 活動内容

### ◎生産技術の高度化に向けた支援

【定性的目標：複合環境制御の考え方を理解し、栽培環境測定値から適切な制御を行えるようになる。また、栽培状況から適切な総合的病害虫管理方法を選択・実施できるようになる。】

これら4経営体の施設には、炭酸ガスや温度、湿度等、複合環境制御が可能なシステムが備えられているが、客観的な生育調査データの蓄積が乏しいことや、測定データに基づいた環境制御に関する情報が少ないため、システムを十分に活かしていない状況にある。

このため、対象法人ごとに自らが生育調査を実施し、データ蓄積ができるよう支援を行うとともに、県園芸振興室と連携したトマトネットワークによる定期的な学習を行った。また、複合環境制御の理解をより深めるため、セミナーへの誘導を図った他、栽培終了後には、総合的病害虫管理も含めた栽培実績検討会（振り返り）を実施し、環境と生育データ比較や課題の改善策について検討を行うとともに安定的な収量確保に向けた支援を行った。（対象2法人）

### ◎生産工程管理（GAP）の理解促進と啓発

【定性的目標：GAP未取得組織は「GAPをとる」体制が整備される】

対象の4経営体のうち、すでに（株）イグナルファームは平成26年に、（株）スマイルファームは平成29年にそれぞれ国際水準GAP（グローバルGAP）を取得済みで、他の2経営体については、未取得の状況にある。

取得法人へは関連する情報提供を随時行った。また、未取得の法人においてはGAP取得に向けた交付金事業に関する情報提供を行った。情報提供を行った1法人からは、国際水準GAP取得に向けた動きが見られ、民間コンサルや農業・園芸総合研究所と協力し、認証取得に向けた支援を実施した。（対象1法人）

### ◎経営状況の把握と経営改善に向けた支援

【定性的目標：決算結果を踏まえ、課題を明確にするとともに改善策の検討が行われる】

対象4経営体の3カ年の決算書を基に財務分析を実施した。また、対象法人へ経営の課題等について聞き取りを行った。さらに、対象法人の経営改善に向け、JAいしのまき等の関係機関と連携を図りながら支援を行った。（全対象法人）

一方で、大手食品系メーカーとの商談など、販売チャンネルの増加、販路拡大・強化に向けた支援を実施した。（対象1法人）

## 3 活動の成果とポイント

### ◎生産技術の高度化に向けた支援

- ・目標収量を十分に確保し、次作へのより高い収量確保の意欲が見られた。（対象1法人）
- ・病害虫の発生状況把握の他、天敵などを含めた防除剤選定の考え方は概ね定着がなされ、自ら観察し考える様子が垣間見られた。（対象3法人）
- ・栽培管理の遅れから、減収や病害虫発生を招いており、複合環境制御技術活用を含め、労務や栽培管理の見直しが必要となっていたことから、関係機関と連携した巡回・指導を実施した。（対象1法人）

### ◎生産工程管理（GAP）の理解促進と啓発

- ・国際水準GAP取得に向け、農場におけるリスク評価や評価に基づく改善のルール作りの他、帳票類の作成・整理が行われ、GAPを通して法人職員の「気づき」に繋がった。（対象1法人）
- ・特にGAPを「する」から「とる」意向が見えない対象に対しては、継続的な情報提供の他、研修会への誘導を図った。（対象1法人）
- ・すでに取得している対象法人においては、改善の実行がなされ、国際水準GAPの更新が順調に行われた。（対象2法人）

### ◎経営状況の把握と経営改善に向けた支援

- ・3カ年の財務諸表の確認により対象の経営状況を把握し、関係機関と状況を共有した。対象法人の中には、品目毎の売上高や経費の把握が不十分であったことや、パートの雇用管理面にも課題を抱えていることから、改善策の検討を行った。（対象4法人）
- ・収量のみならず、毎月あるいは、四半期毎の経営状況把握を行い、栽培と経営面の両輪で運営状況を把握するとともに、法人の打合せにおいては意見交換を行うなど、経営改善に向けた支援を行った。（対象2法人）

《定量的数値目標：生産工程管理実施法人数前年度3→本年度3》



栽培実績検討会（振り返り）



適合基準の確認

項目	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度
売上高	2,000	2,000	100%	100%	2,000	2,000
経費	1,500	1,500	75%	75%	1,500	1,500
利益	500	500	25%	25%	500	500
経費率	75%	75%			75%	75%
利益率	25%	25%			25%	25%
売上高1円当たり	1.00	1.00			1.00	1.00
経費1円当たり	0.75	0.75			0.75	0.75
利益1円当たり	0.25	0.25			0.25	0.25
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%
利益増進率	0%	0%			0%	0%
売上高増進率	0%	0%			0%	0%
経費削減率	0%	0%			0%	0%

## プロジェクト課題名 No3. いちご産地のステップアップ

対 象 JAいしのまきいちご生産組合（石巻苺生産組合，やもといちご生産組合，河南いちご生産組合），株式会社 イグナルファーム，株式会社 アグリ・パレット 株式会社 サンエイト，株式会社 いちごランド石巻

### 1 課題の背景

いちご栽培においてナミハダニやうどんこ病は重要病害虫であり，県農業・園芸総合研究所(以下，農園研)によって新たなIPM技術が試験され，当管内では既存の天敵に加えこれら技術の導入が進んでいる。また，当管内では高度な環境制御に意欲的な生産者がおり，関係機関と連携した「いちご生産者ネットワーク」に参画し，環境・生育データを共有して栽培管理を行ってきた生産者もいる。JAいしのまき統一いちご部会が解散し，各生産組合間の交流が少なくなっている他，法人へ就農した新規就農者は地域との関わりが希薄になりがちである。産地の維持・発展に中心となるべき次代の担い手育成を生産者・関係機関が一体となって支援する必要がある。

### 2 活動内容

#### ◎新たなIPM技術導入および農薬の適正使用支援

【定性目標：新たなIPM技術（高濃度炭酸ガスくん蒸・UV-B照射・バンカーシート等）への理解が深まり技術導入が進むとともに，病害虫被害が軽減される。また，既存のIPM技術や農薬の使い方への理解が深まり，自ら判断し適切に実施できるようになる。】

県農園研と連携した実証ほ（株）トライベリーファーム，（株）イグナルファーム）並びに普及センター独自調査ほ（株）アグリ・パレット）における定期的な病害虫調査を実施し，調査結果は「いちご情報」として発行（計4回見込み）して，新技術の防除効果や防除コストの情報提供を行った。10月には農薬と病害虫防除研修会を開催し，外部講師による現地指導会並びに講習会を実施して，現場を見ながらの農薬散布手法のポイントや系統別農薬の考えを研修する場を設けた。11月には矢本地区IPM現地検討会を開催し，県農園研実証ほの成果を情報提供するとともに，天敵資材の現地指導を行った。また，新規技術導入ほ場に対して，設置数や設置方法について随時助言を行った。さらには定期的な病害虫指導に加え，各生産組合の栽培講習会等に出席し，天敵の導入時期や併用可能な農薬の使い方などについて指導を行った。

#### ◎高度な環境制御技術の導入による生産技術の高度化

【定性目標：自らが施設内環境の変化を把握し植物生長に適した環境制御を実施できるようになる。】

環境制御の実践と定着を図るため，現地指導を実施し草勢や時期に応じた環境管理ができるよう支援を行った（株）トライベリーファーム，（株）イグナルファーム，（株）アグリ・パレット）。主要法人5社に対しては，関係機関と連携しながら前作の振り返りを実施し，環境データや収量データをもとに課題の抽出と目標設定を行った。また，環境測定装置新規導入経営体に対しては，環境センサーのデータ加工などについて指導を実施した（株）サンエイト）。さらには，主要環境測定装置の生データを共通様式に落とせるようにウイークリーレポートの改変，マニュアルの作成を行った。7月には環境制御の理解促進を目的に環境制御セミナーを開催し，環境制御や栽培管理，先進事例の取組みについて研修する場を設けた。10月よりいちごの環境制御勉強会を実施（計6回見込み）し，各々の環境データを持ち寄り，現在のハウス内管理について意見交換しながら今後の管理について検討する場を設けた。

#### ◎いちご生産者交流の活性化

【定性目標：IPM技術や環境制御といった共通の課題をもとに，各生産組織の枠組みを超えた生産者間交流が活性化する。】

農協いちご担当者会議を実施（計4回見込み）し，環境制御勉強会の打合せ等について定期的に情報交換する場を設けた。また，農業法人のいちご栽培担当者を他地区の現地検討会に参加誘導し，他の栽培者の現場を研修しながら意見交換する場を設けた（株）サンエイト）。さらには，普及センター主催で開催する研修会等を通し生産者間交流の活性化を支援した。

### 3 活動の成果とポイント

#### ◎新たなIPM技術導入および農薬の適正使用支援

【定量目標：新たなIPM技術の導入経営体数 H29年 7経営体→H30年 9経営体（実績 11経営体）】  
県農園研の実証結果ではUV-B照射の高い防除効果が得られていた。防除効果の高さもあり，導入

済みの経営体では育苗や本ぼへの増設（(株)いちごランド石巻、(株)トライベリーファーム）、新規導入ほ場では本ぼでのうどんこ病抑制効果により、農薬散布回数を削減する状況にある。また、バンカーシート導入ほ場では、化学合成農薬と併用しながらナミハダニの発生を低く抑えることに成功し、農薬散布回数を削減する状況にある。また、外部講師による現地指導会並びに講習会を開催した結果、農薬散布の圧力を下げたり、散布速度を緩めたりする変化が見られた。さらには、天敵と農薬の特性について理解が進んだことにより、過去に多発させたナミハダニやアザミウマ類の防除に成功しているほ場もある((株)アグリ・パレット)。

本年度は高濃度炭酸ガスくん蒸処理1件、UV-Bランプ導入2件、バンカーシート導入3件の実績となり、新規導入経営体数は11件に増加し、数値的目標は達成されている。

#### ◎高度な環境制御技術の導入による生産技術の高度化

各法人に対し生育や環境測定データの活用を指導した結果、従業員における生育測定及び役員による月2回の栽培管理打合せが実施できるようになり、環境や病虫害管理が改善されつつある((株)アグリ・パレット)。また、役員が実施していた環境制御への取組みが社員にも浸透し、主体的に実施する様子が見て取れる((株)イグナルファーム)。前作の振り返りを行うことで、担当でPDCAを回すことができるようになり、次作への取組みに反映されている。環境制御セミナーの参加者ではハウス内管理や栽植密度の見直しに着手するところも見られた。環境制御勉強会については、10名程度の生産者や農協職員による継続的な参加が見られ、同じ様式にて環境測定値を他経営体と比較することができ、自身の管理との違いを認識することで、CO2の施用方法や天窓の開度について反映させているほ場も見られた。

環境制御セミナーや勉強会を定期的に開催することで、環境設定や栽培手法を変更する取組みが見られ、生産者の意識啓発と行動の変化につながっていると思われた。

#### ◎いちご生産者交流の活性化

定期的に農協いちご担当者会議を開催することで、勉強会の打合せや新品種の動向に加え管内生育状況などの情報の共有化が図ることができた。生産組合に属さない法人担当者や他組織とのコーディネートを行うことで勉強の場を設けることができ、今後の管理に徐々に反映させるようになった。普及センター主催の研修会に参加した生産者では部会の枠を超えて、意見交換している様子が見られ、それぞれの意識啓発につながっていると思われた。



現地研修会の様子



環境制御勉強会



栽培指導の様子

## 4 今後の活動予定

#### ◎新たなIPM技術導入および農薬の適正使用支援

現地巡回や現地検討会等で随時指導や情報提供を行い、技術の普及・推進を図る。また、ハダニ類防除に課題が残るほ場においては、防除暦を廻り農薬あるいは天敵資材の使い方について個別指導を行う。

#### ◎高度な環境制御技術の導入による生産技術の高度化

定期的な巡回指導を行い、社員が環境や生育測定の結果をもとにPDCAサイクルを回せるように支援する。拠点を変えて環境制御勉強会を継続し、環境測定データの比較や現在の管理について意見交換を行いながら、積極的な環境や栽培管理に活かせるように支援を行う。

#### ◎いちご生産者交流の活性化

農協などの関係機関と連携を強化するため、農協いちご担当者会議を定期的に開催する。また、管内に新品種「にこにこベリー」の普及展示ほを設け、新品種現地検討会を開催し、生産組合の枠にかかわらず広域での現地検討会を開催する。さらには、新品種の今後の販売促進を目的に新品種PRイベントを開催する予定にしている。

プロジェクト課題名 No. 4 拡大する復旧農地を担う大規模農業法人の経営力強化  
対 象 株式会社宮城リスタ大川  
活動期間 平成30年度～平成31年度

## 1 課題の背景

- ・甚大な津波被害を受けた石巻市大川地区において平成25年5月に(株)宮城リスタ大川が設立され、その後年々面積が拡大して平成29年には121ha、平成30年度は133haまでの規模となり、水稻部門のほか、施設きく(83a)、転作大豆栽培(5ha)にも取り組んでいる。現在の経営課題は水稻収量の向上、規模拡大に対応した省力化、効率的な土地利用検討があげられ、平成29年から農地管理システムを試験的に導入している。
- ・水稻は、売上高の77%を占める基幹部門であるが、土壌が砂質でやせているために、平成29年の収量は444kg/10aと低かった。とくに長面地区(68ha)は、作土深が浅く、強風による作土肥料の飛散により生育量不足や生育ムラが生じて減収(400kg/10a)した。また、新たに作付けされる工区では塩害等が発生する可能性があり、対応が必要である。
- ・水稻栽培面積が100haを超えたために、省力技術としての乾田直播栽培を試験的に1.6ha導入し、翌年の平成29年には13.3haに拡大した。しかし、収量が低く雑草等の発生が多かったため栽培技術の向上が課題となっている。
- ・一方、経営面でも、農地管理システムの適切な運用、水稻の栽培方法と大豆の適切な組合せや米対応の転作作物導入・拡大等の土地利用の効率化が課題となっている。併せて新しい技術の習得も含めた社員の技術レベルアップも課題となっている。

## 2 活動内容

### ◎長面地区の水稻収量向上支援

【定性的目標：水稻育苗箱施肥法での水稻生育経過・収量を把握して現地適応性が検討できる】  
長面地区の水田に育苗箱施肥法の試験栽培ほを設置し、苗及び移植後の生育調査等を実施した。また、本年度引き渡され、初めての作付けとなる長面地区のほ場に塩害等生育影響調査ほを設置し、生育状況や塩害等の影響を実施し、被害軽減対策について助言を行った。

### ◎水稻乾田直播栽培技術の向上支援

【定性的目標：乾田直播栽培技術の向上が図られ収量・品質が向上する。】  
乾田直播き調査ほを設置し、出芽状況、生育状況、雑草発生状況等について調査し、定期的な巡回を行い必要な助言を行った。

### ◎土地利用改善と効率的なほ場管理の支援

【定性的目標：規模拡大に対応した土地利用とほ場管理システム運用の検討が行われる】  
経営管理に関する外部コンサルを活用し、法人における経営課題を整理した。この課題への対応として、社員のモチベーション向上に向け、社内会議における技術研修会を開催するとともに、休日確保や給与体系の見直しを行った。この他ほ場管理システムを活用した作業状況の入力等について支援を行った。併せて新たに作付けが開始される長面地区の営農上の課題解決に向けた関係機関の連携を推進した。

## 3 活動の成果とポイント

### ◎長面地区の水稻収量向上支援

- ・水稻育苗箱施肥は、育苗期間中の苗の生育が旺盛で、収量は慣行区対比で113%と高かった。また、慣行区では1～2kgの追肥が必要だが、育苗箱施肥法では肥効が長いので、追肥作業が不要となり、省力化技術としても有望と考えられた。一方、播種作業に施肥工程が加わるため、継続検討することとした。
- ・塩害等生育影響調査ほについては、6月下旬に塩分による下葉の枯れ上がりが認められたが、深水管理により回復した。しかし、7月下旬から再度下葉の枯れ上がりが見られ、8月初めには一部で上位葉の先が少し枯れた。8月5、6日にまとまった降雨があり水不足は解消されたが、台風通過後に一部のほ場で穂の褐変症状が見られた。収量は、穂数、籾数、登熟不良により慣行区対比で61%と低くなった。

### ◎水稲乾田直播栽培技術の向上支援

- ・乾田直播き面積は12ha（昨年と同ほ場）で実施しており苗立ちは良好であった。昨年はコウキヤガラ、ノビエ等の雑草発生が多かったが、今年は除草体系を見直し雑草の発生を抑えた。
- ・葉色が急激に低下したため、7月上旬及び下旬に追肥を行ったことにより、茎数が確保され、収量は、茎数、穂数、粃数が前年を上回り、前年比117%となり、管内の標準的な収量と同等の収量品質を確保できた。

### ◎土地利用改善と効率的なほ場管理の支援

- ・法人における経営課題を「社長、会長に頼らず作業管理ができる社内体制作り」とすることを社長、会長と確認した。この課題を解決するため、本年の目標を①社員の資質・技術・やる気の向上、②社内会議の充実、③ICT活用（情報共有・経営の見える化）とした。
- ・社員の資質向上に向けて、水稲の栽培技術研修会を4回開催した。研修を通じて生育状況の把握や生育に応じた追肥作業など、現場に即した技術の理解に繋がった。
- ・社内会議の開催については、6月下旬には全社員が参加する決算報告会が開催され、社員においても経営の現状や課題について共有され、活発な意見も出された。
- ・8月に実施した外部コンサルによる個人面談に基づき、休日取得や給与体系を見直し、これら改善事項について社員と検討し、モチベーション向上に繋がった。
- ・ほ場管理システムについては7月から作業実施状況の入力を開始し、ほ場毎の作業進捗、作業時間の把握など、入力したデータを作業管理やほ場管理等に活用している。
- ・ほ場毎（11の区画毎）の収量は、針岡（54ha）の447kg/10aに比べ長面（79ha）は407kg/10aと40kg/10a少なく、特に収量が少なかった長面の3区画（33.8ha）では384kg/10aとなり、これを踏まえて、関係機関・団体で長面における作付け上の課題を検討する会議を開催した。

《定量的数値目標：長面地区の水稲収量

H29年 400kg/10a → H30年 440kg/10a → H31年 480kg/10a》

（実績 410kg/10a）

- ・育苗箱施肥法調査ほの生育量は慣行区を上回っており、7月以降の稲の栄養状態も良好で、穂数、粃数が慣行区より勝り、収量も113%と高かった。



育苗箱施肥の状況（5/22）



社員研修/生育状況（8/1）



ICT導入研修（8/1）

## 4 今後の活動予定

### ◎長面地区の水稲収量向上支援

- ・育苗箱施肥法の収量増加効果と育苗の労力・コストなど経営改善効果を継続して検討する。
- ・生育確保、収量向上に向け、作土葬改善の実証を行う。
- ・塩害の原因は、長面地区の水源の一つ（釜谷ため池）からの用水の塩分濃度が高かったことによるものと判明したが、用水塩分と降雨や地下水塩分濃度との関係を調査し、新規営農開始ほ場における塩害防止対策や塩害が発生しないほ場条件作りについて検討を行う。

### ◎水稲乾田直播栽培技術の向上支援

- ・乾田直播栽培実証ほにおける生育調査、収量及び品質調査により栽培技術定着を図るとともに大規模経営における省力化効果や直播き栽培の導入拡大などについて検討を行う。

### ◎土地利用改善と効率的なほ場管理の支援

- ・各人が担当する水稲ほ場の管理状況を確認し栽培技術のレベルアップを支援する。
- ・平成32年度以降の引き渡し農地における栽培品目のせん定のための栽培実証を行う。
- ・ほ場管理システムの入力状況の確認等を通じて、栽培管理技術の向上、社内の情報共有、効率的な作業の実施に向け、ほ場管理システムのデータの活用を進める。



プロジェクト課題名 No. 5 水稻直播栽培の技術定着による稲作経営体の経営強化  
対象 (有)サンダーファーム牛田, (農)ゆいっこ, (農)ビッグベリーランドパートナーシップ, (農)たてファーム・和, (有)アグリードなるせ, 個別経営体

## 1 課題の背景

- 管内の直播栽培面積(飼料米等含む)は平成28年に302ha, 平成29年に501haと増加している。
- 播種様式別では, 乾田直播が大豆・麦用機械の共用や移植栽培との作業分散が可能であることから直播栽培面積全体の約9割を占めており, 県全体では3割を占めるに過ぎないのに対して大きな特徴となっている。
- 特に, 大規模経営体においては, 経営面積の拡大に伴って, 育苗施設規模による制約や作業の分散を図るため, 直播栽培の新規導入や取組面積を拡大する傾向がみられる。
- JAいしのまきでも栽培技術向上に向けて現地検討会等を開催する等普及推進を図っている。
- 東松島市矢本地区では「やもと乾田直播生産者協議会」が平成28年3月に設立され, 技術改善のための現地検討会が行われている。
- 管内の乾田直播栽培は, 東北農研センターが開発した栽培方法の取組が大部分で, 実践者ごとに技術の向上に取り組んでいるが, 苗立ち不足や雑草発生, 施肥の過不足等により低収となっている事例がみられ, 栽培技術の向上が課題となっている。
- 直播栽培導入による経営面でのメリットを明確化するとともに, 労働力・機械施設等を効率的に活用・稼働させるための栽培・作業体系についての検討も重要となっている。
- 普及センターでは「直播栽培技術普及展示ほ」を長期間設置して生育状況を把握しており, 昨年度から始まったこのプロジェクト課題活動により, 対象経営体の作業体系・肥培管理と生育状況・収量等の概要を把握している。

## 2 活動内容

### ◎直播栽培技術の確立支援

【定性的目標：事例集の作成過程で, それぞれの課題が整理され, 収量の安定化や栽培技術の高位平準化に向けた取組が行われる】

栽培管理状況把握のために, 播種作業体系・耕種概要等の調査を行い, 生育・収量状況を把握するために, 苗立ち状況, 生育状況, 病害虫・雑草発生状等の調査を行った。

調査終了後, データを整理・検討してまとめ, さらに栽培者・関係機関を参集した検討会での意見を反映させて, 年度末に栽培事例集を発行した。

### ◎直播栽培取組者の技術向上・定着支援

【定性的目標：直播栽培において, 取組地域の地力, 作業体系別, 肥培管理, 品種別の生育状況等に基づいた管理が行われる】

やもと乾田直播生産者協議会への活動支援として, 5月と7月の矢本地区現地検討会で苗立ち, 入水時期, 除草方法, 追肥, 病害虫防除等の技術指導を行った。

また, 定期的に発行する稲作情報に直播栽培展示ほ生育状況を含めるとともに, 直播栽培情報を発行した。

### ◎直播栽培導入経営体の経営改善支援

【定性的目標：作業体系, 品種毎の経営的特徴等の全体像が把握され, 効率的な作付計画が作成される】

生産資材コスト調査を行って経営面でのメリット, デメリットを確認するとともに, 労働力, 機械施設等を効率的に活用・稼働させるための栽培・作業体系を検討している。

検討結果については, 年度末に発行する栽培事例集に掲載した。

## 3 活動の成果とポイント

### ◎直播栽培技術の確立支援

- 直播栽培の中心となっている乾田直播栽培のデータを収集するために4経営体(3法人, 1個別経営体)を選定して, 播種作業体系, 耕種概要等の調査を行って栽培管理状況を把握した。播種は4月に行われ, ドリルシーダーで播種した後, ローラーで鎮圧している。

- ・各経営体から1ほ場を選び、苗立ち調査、定期生育調査（6/1から7/20まで10日おきに草丈・茎数・主稈葉数・葉色等調査）、出穂調査・成熟期調査・収量調査を行って生育経過・収量を把握するとともに、病害虫・雑草発生状況も把握し、情報提供した。
- ・栽培管理調査の結果については、生育・収量調査結果も含めて検討し、栽培事例集（案）を作成した。2月に課題対象者、JAいしのまき担当者を参集して栽培事例集（案）の内容を中心に検討会を開催し、検討された内容も含めた形で年度末に事例集を発行した。

**◎直播栽培取組者の技術向上・定着支援**

- ・やもと乾田直播生産者協議会に対する支援として、5月14日と7月27日に開催された現地検討会に講師として出席して指導を行った。5月14日は主に出芽・入水・除草に関する検討で矢本地区5ほ場で実施され、7月27日は主に追肥・除草に関する検討で5ほ場で実施され、それぞれ協議会員約30人が参加した。
- ・恒例となっているJA主催の乾田直播栽培現地検討会が、5月18日と7月12日に開催され、講師の東北農業研究センターの専門家から指導を受けた。
- ・普及センターで6月から8月まで7回発行している「稲作情報」に水稲直播栽培技術普及展示ほの結果を掲載するとともに、直播栽培情報も2回発行した。

**◎直播栽培導入経営体の経営改善支援**

- ・チーム会議で、調査内容（資材等コスト調査、作業分散効果調査）、調査方法について検討した。
- ・4経営体を対象に、生産資材コスト・作業時間等の調査を行って経営面でのメリット、デメリットを検討し、確認するとともに、労働力、機械施設等を効率的に活用・稼働させるための栽培・作業体系を検討し、検討結果については、栽培事例集に掲載した。

《定量的数値目標：直播取組目標面積 H28 62ha → H29 75ha → H30 90ha》  
 （実績 94ha） （実績 104ha）

（参考）

- ・今年度の直播栽培面積（飼料米等含む）は660haとなり昨年より159ha拡大しており、そのうち主食用は571haを占め昨年より138ha拡大している。なお、乾田直播栽培は直播栽培面積全体の92%を占めている。



現地検討会（7/27・矢本）



傾穂初期（8/14・河南）



収穫作業（10/5・矢本）

表 課題対象者の取組面積 (ha)

対象名	水稲栽培面積	うち直播栽培面積
(有)サndaーファーム	72	42
(農)ゆいっこ	42	0
(農)ビッグベリー	35	25
(農)たてファーム	53	15
(有)アグリード	51	16
大崎氏	14	6
計	267	104

プロジェクト課題名 No. 6 経営の発展段階に応じた農業法人の育成  
対象 (農)大地大沢, (農)朝日の郷, (農)パラダイスファーム大番所  
活動期間 平成29年度～平成30年度

## 1 課題の背景

石巻市北村西地区の大沢, 朝日, 大番所の各集落では, 農地整備事業を契機として平成18年に農用地利用改善組合と集落営農組織(特定農業団体)が設立された。地区の担い手に位置付けられている集落営農組織等は, 法人化が事業要件となっていることから, 関係機関と共に法人化に向けた支援を行い, 平成28年4月から6月にかけて3法人が設立された。

集落営農組織を母体とした農業法人は, 地域農業の担い手として, 稲作や農地の受け手となることが期待されていたが, 対象法人では転作を主体とした経営を選択したため, 法人経営の安定向上のためには, 水稲作を含めた土地利用型経営体への誘導や収益性の高い品目の導入など検討していく必要がある。

## 2 活動内容

### ◎農業構造, 地域資源調査の実施支援

【定性的目標: 農用地利用改善組合等の集落営農組織や各法人と連携して, 集落毎の農業構造や地域資源の状況が把握される】

法人経営における経営拡大や農機具等の投資計画等を検討するため, 各法人構成員の年齢構成や機械施設等整備状況の把握, 個別水稲経営の受委託状況や今後の営農の意向等について聞き取りや調査を行った。

### ◎法人の中長期計画の作成支援

【定性的目標: 法人の中長期の経営方針等が作成される】

法人化後の経営の安定化や発展のため, 3法人代表と関係機関等で進め方について打合せを行い, その後各法人毎にワークショップを開催した。

### ◎法人経営の安定化支援

【定性的目標: 法人経営が安定・向上する】

法人の総会資料やワークショップ等より, 経営内容の把握や問題点の整理を行った。  
栽培技術情報の情報提供, スマート農業現地実演会や法人研修会等へ参加誘導を図り, 法人構成員相互の情報共有と共通認識のもと, 経営の安定化に向けた支援を行った。  
また, くん炭製造している法人に対しては, (公財)みやぎ産業振興機構が主催するアグリビジネス復興戦略塾(相談会)への参加誘導を図ったほか, 育苗跡ほうれんそうやちぢみゆきな等の栽培支援を行った。

## 3 活動の成果とポイント

### ◎農業構造, 地域資源調査の実施支援

- 法人構成員の平均年齢(H30.4月現在)は, 大地大沢は54.8歳(9戸12名), 朝日の郷は63.3歳(10戸11名), PF大番所は68.4歳(19戸19名)であり, 特にPF大番所は世代交代が進んでおらず法人側でも課題と認識している。構成員の中には自己の経営移譲と合わせ法人内での世代交代の動きが徐々に見られ始めている。
- 各法人構成員における水稲の生産状況は, 大地大沢では理事ら6名が個別担い手として地区内稲作面積の9割超をカバーし, 朝日の郷では理事4名が2つの生産組合代表や個別担い手農家2名として地区内の稲作を担っているが, PF大番所では理事6名のうち1名が生産組合の代表として, 1名が個別担い手として受託している状況で個別の稲作意識が強く, 共同作業という意識がないと感じている。
- PF大番所では, 農業機械施設の所有状況調査を一度実施したが, ワークショップでの話合いにより, 今後の個別経営をいつまでどの様に続けるかを付加した主要機械の更新を再把握し, 今後の継続的な話合い役立てる方向に意識が変わった。また, 大地大沢では収穫から稲わら収集等の共同作業に関心が示されたため機械更新時期や世代交代をタイミングとみて, 所有状況を整理することになった。

### ◎法人の中長期計画の作成支援

- 3法人代表と関係機関との話合いを設け, 法人経営発展のためワークショップを各法人毎に開催した。

- ・ワークショップでは「法人となつての感想」を切り口に、現状を踏まえた法人のこれからについて意見をもとに検討を行った。3法人の共通内容としては、法人経営に水稲を含めた土地利用型経営体への移行や収益性の高い品目導入については、個別に稲作経営を行っているため法人への集約や取組は難しいが、法人が地域の担い手として中間管理事業を通じた集約には、地域の担い手として対応していく方向で認識されている。
- ・法人毎の計画では、大地大沢は地区内水稲生産組合が所有しているミニライスセンターの機械更新の見送りと個別担い手農家のントリーエレベーターの利用検討を受け、収穫から稲わら収集等の共同作業と後継者への世代交代をタイミングとみて、2～3年先の計画検討が始まった。
- ・朝日の郷では、くん炭の販売額向上を目指すためアグリビジネス相談会を受講し、地域や使用者を絞った販路開拓や販売促進資料の作成、家庭向け消臭剤利用等のアドバイスを頂き、今後の取組を検討している。
- ・PF大番所は現状維持の方向であるが、転作や水稲の受け皿として存続は必要との意識は確認ができた。

### ◎法人経営の安定化支援

- ・大豆の販売収入や交付金収入が主な収入構成で経営が極めて不安定となっているため、経営管理向上を目的とした研修会を開催した。年間を通じて収入時期が限られる中での資金繰りと、自己の農業経営において経営移譲がみられる中で法人内部でも円滑な継承が図られるよう3法人の共通問題として研修を行ったほか、それぞれの法人が抱える問題について個別相談を行った。
- ・法人経営に園芸品目を導入している法人では、育苗跡年3作のほうれんそうの作型にちぢみゆきな栽培を導入した。一部のハウスで生理障害がみられたため情報提供や対応を行った。

《定量的数値目標：

集落農業構造等の把握に基づく法人の中長期計画の作成数

0法人→1法人(H29)→3法人(H30)》

実績：0法人→1法人(H29)→3法人(H30)



ワークショップの開催状況(上3枚)

「法人となつての感想」の主な意見

#### 【良かった点】

- ・集落営農との時よりも、団結力が強くなった
- ・若い従事者もおり、体が楽になっている
- ・収支を数字で捉えられる
- ・利用権設定や準備金等に対応できる
- ・他の農家と働くことで気づき生まれた

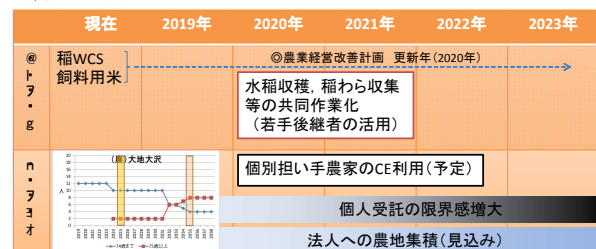
#### 【悪かった点】

- ・任意組合から比べ収入が減った
- ・税金や労災経費等の経費が掛かる

ワークショップでの意見

### 法人経営発展のためのワークショップ(農)大地大沢

(農)大地大沢のこれから(地域の稲作2~3年先のイメージ)



大地地区の水田面積 117ha  
水稲作付け面積 74ha(H30年産)  
うち法人役員の耕作面積 68ha  
耕作割合 90%

【イメージ】

- ・経営の継続に向けたソフトランディング
- ・農地の集約化に併せた水稲収穫作業等の共同化
- ・事業継承に向けた後継者の役割、責任の醸成

将来的な方向性のイメージ